

## 授業概要

経済学は、社会科学分野の代表的な学問の一つであり、大きな学問体系をなしています。経済学が分析対象とする問題は、我々個人の意思決定と行動、企業の行動、産業の動向、政府の役割、一国経済全体の動向、国際間の経済取引など、極めて多岐に渡ります。

この授業では、そもそも経済学とはどのような学問であるのかに始まり、経済学の歴史、市場経済や計画経済といった経済体制の違い、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本、経済政策の役割、国際貿易や為替レートの意味などについて解説し、経済学の基礎を修得することを目指します。

## 授業計画

第 1 回	経済学とはどのような学問か
第 2 回	需要と供給の意味
第 3 回	GDP とは何か
第 4 回	GDP の国際比較
第 5 回	経済学の誕生（古典派経済学）
第 6 回	経済学の発展（マルクスとケインズ）
第 7 回	現代の経済学
第 8 回	市場経済と計画経済
第 9 回	資本主義の多様性
第 10 回	ミクロとマクロ
第 11 回	独占、寡占、独占的競争、完全競争
第 12 回	消費者の効用最大化行動
第 13 回	企業の生産活動
第 14 回	インフレ、デフレ、失業
第 15 回	開放経済のもとでの均衡
第 16 回	期末試験

## 到達目標

経済学に関するさまざまなトピックスを基礎的な経済理論を用いて学び、経済学全般に関する理解を深めることを目的とします。学生の皆さんの多くは、卒業後には社会に出てさまざまな経済問題に直面すると思いますので、それらの問題の本質を正しく理解して、適切に対応できるようになることを目標にします。

## 履修上の注意

この授業は、基本的には講義形式で進めますが、積極的に質問するなどして疑問点を解決する努力を期待します。また、前週の講義内容をきちんと復習することと、毎回出席することを求めます。

## 予習・復習

各回の授業ではできるだけきちんとノートを取り、授業終了後に内容を復習することを求めます。

## 評価方法

期末試験（70%）および各回の授業への参加姿勢（「質問・意見等」）（30%）に基づき、総合的に評価します。

## テキスト

教科書は使いません。私が作成する講義資料に基づき、授業を進めます。

**授業概要**

経済学という学問について理解するために、経済学とは何か、経済学とはどのような学問かを具体的に知り、資本主義経済の歴史と経済学の理論の基礎を学ぶ授業である。また初めて経済学を学ぶという前提で授業をすすめるので、現実の経済に対して関心を深めるために時事問題などをできるだけ扱い、経済学を身近に感じ理解できるように指導することを目的としている。

**授業計画**

第 1 回	経済とは何か(ガイダンス)
第 2 回	市場と社会
第 3 回	経済学誕生以前の経済学
第 4 回	市場経済の系譜
第 5 回	市場の経済思想
第 6 回	アダム・スミスの経済思想
第 7 回	アダム・スミスの経済理論
第 8 回	授業内中間試験
第 9 回	貨幣の機能
第 10 回	富としての貨幣
第 11 回	貨幣数量説
第 12 回	第二次世界大戦後の金融システム
第 13 回	国際通貨システムと貨幣
第 14 回	現代経済と経済学
第 15 回	まとめと補足
第 16 回	期末試験

**到達目標**

経済学とはどのような学問なのか理解する、また経済学を学ぶ目的を学ぶこと。経済関連の時事的問題やニュースなどに関心を持ち、ある程度理解できるようになること。

**履修上の注意**

ノート、プリントなどを中心に学習すること。

**予習・復習**

授業ノートの整理をしておくこと。

**評価方法**

期末試験(40%) 中間試験((40%) 小テストかレポート課題(20%)

**テキスト**

特に定めない。参考文献は授業中に指示する。